

アイユゴー 通信 第7号

申し込み及び問い合わせ先: **アイユゴー** ‘**途上国の人と共に**’ 事務局

住所: 590-0432 大阪府泉南郡熊取町小垣内1-10-18

TEL/FAX: 0724-52-8340 ・ 090-9167-7053 (新田) 振込先: 日本郵政公社—00980-2-71223 アイユゴー

e-mail: aiyugo@rinku.zaq.ne.jp homepage: <http://aiyugo.fc2web.com> (設立:2001/10/15)

編集:事務局 : 岩見和孝、新田香織、間城徹也 発行人 : 新田幸夫



(タイ王国メーホンソン県パンムー地区タンボン郡クンパトゥング村のリス族のみなさん)

彼らは、紛争が絶えないミャンマー(ビルマ)から平安を求めて、なんら当てもなく国境を越え、今住んでいるところにたどり着きました。タイの現地政府の協力のもとで、総勢100名が山の中腹を切り開き、山の大きな葉を屋根にして住居を構えました。写真中央の黄色の服を着た人はワチラ氏で、この事業のもっとも中心的な協力者です。彼はミャンマーとの国境であるこのメーホンソン県メーホンソン地区の副知事で、3万人から4万人いると言われるミャンマーの難民キャンプの総責任者です。



現在、ここで持続可能な畜農業の指導を行っています。(平成17年度事業報告を参考にしてください。)リス族の人たちは、自分たちで畑を耕しながら、農業の勉強の実施指導を受け、収穫するようになりました。家畜の糞などを肥料にしてもっと多くの野菜を栽培できるように2006年度も続けてきます。



タイ、ラオス、ベトナム、日本の4カ国による第1回合同セミナー

本会は、今年10月に5周年を迎えます。この合同セミナーの開催目的は、これまで本会が協力・支援してきた事業地の代表各5名を一堂に会して、各国それぞれが農業・福祉事情や制度、NGO活動、情報システムなどを紹介し、今後の相互協力を役立てようというものです。

アジアではモンスーン地帯と米作という共通点はあるが、福祉制度などで共有できるものはないのだろうかという疑問が、ベトナムのダラッド大学社会福祉学部長タイ教授たちとの話の中から出ました。以前からベトナム側もラオス側も、本会が行っているタイの農業情報センターを軸にした農業指導、植林・栽培活動に深い関心を持っていました。それで、これらを身近な問題として、

<ダラッド大学社会福祉学部にて打ち合わせ>



手前右から、
学部長タイ氏
新田氏

アイユーゴーが関わっている事業地の若い専門家たちが集まり、今後のための情報交換をしようということになりました。

アイユーゴーが関係する事業地の若い専門家たちがこうして、タイ、メーホンソン県パンマパー地区にラオス・ベトナムからの代表者、そして日本からも福祉、特に社会福祉、医療保健等の専門家、農業専門家も参加して、4ヶ国による第1回合同セミナーを開催いたします。できれば、セミナー終了後にそれぞれの国で行動計画を作り、さらなる交流を深めていきたいと考えています。

(三菱銀行国際財団からの助成)

<タイ側の参加者>



左：パンマパー地区議員
スチープ氏
中央：農業情報センター長
ソムヨツツ氏
右：メーホンソン地区副知事
ワチラ氏

もちろん、会員の皆様も参加できます。ご関心のある方は是非ご参加くださるようよろしくお願いいたします。

***同じ時期に、ワークキャンプがあります。**

平成17年度の事業の報告

平成17年度の本会の事業報告をさせていただきます。内容は、

- (1) 教育支援プロジェクト
- (2) 農業地域開発プロジェクト
- (3) 日本の国際協力事業への
アドバイザーとしての参画
- (4) 自主事業(ワークキャンプ)
の4点からなります。

(1)教育支援プロジェクト

小学校がなかったベトナム・ラムドン省ラックドン地区ラット村に、2つの小学校建設とトイレ建設を行いました。この2校の小学校は20km以上離れています。



(財)大阪コミュニティー財団による助成



(財)ひろしま・祈りの石国際教育
交流財団による助成

(2)農業地域開発プロジェクト

タイ北部のメーホンソン県パンマパー地区を中心に活動を行っています。この地域では麻薬(ケシ栽培・麻薬密売)文化撲滅のために植林するとその場所が自分所有の畑と黙認されるということになっています。そこでこの活動の大きな目的は、少数民族が焼畑農法(移動式農法)から定住型の農法に移行し、定住するためのIDカードを取得し、麻薬(密売)をやめるようにすることです。

(i)同地区のムアンパン村(カレン族の村)で、住民参加型農村開発の活動として、山岳地帯に居住する少数民族自らが参加して有機農法を取り入れ、経済的自立と環境保全を図るための農村開発を行っています。

(緑の募金より助成)



数キロはなれた畑に向かう農民



植林後子供達との記念写真

(ii) 同地区の14村(ムアンパン村を除く)の住民参加型農村開発の活動として、住民が開発支援センターでの指導を受けた後、各村でマンゴ、コーヒー、タマリンド、マカダミアナッツなどを栽培・植林しました。
(地球環境基金より助成)



少数民族の女性たち



急勾配を利用して植林

(iii) 同県パンムー地区タンボン郡クンプトゥング村で少数民族(リス族)の住民参加型農村開発の活動を行いました。
<表紙参考> (日本郵政公社より寄附)



寄附金について説明を行うワチラ氏



収穫の前に子供たちとワチラ氏

(3)日本の国際協力事業への アドバイザーとしての参画

(社)日本青年会議所島根ブロックの皆様が国際貢献事業として小学校のトイレ建設と村人たちとの交流を行うためのコーディネートをしました。



左：小学校(2004年建設)

右：トイレ

(4)自主事業(ワークキャンプ)

本会での事業現場で、村人と文化・技術の交換を通じた交流を行いました。

- ・橋建設完了に伴う農地開拓の協力と交流



3年がかりの橋が村人の手によって建設完了し、



「希望の橋」

と名づけられました。

☆事業報告は以上です。ご質問、ご意見、ご感想などがありましたら、是非本会事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

収入と支出・ご寄付をいただいた方々のご報告

さて、これまでの事業に対しての会計決算は次のようになりました。

<収入>

科 目	決 算
1. 会費収入	599,890
2. 寄付金収入	1,515,709
3. 助成金収入	5,744,000
4. 自主事業収入	489,300
5. 雑収入	30
6. 繰越金	1,015,888
7. 借入金	690,000
8. 未収入金	204,000
収入合計	10,258,817

<支出>

科 目	決 算
1. 事業費	7,300,723
2. 管理費	851,000
支出合計	8,151,723
収入合計(A)	10,258,817
支出合計(B)	8,151,723
残高(A-B)	2,107,094

《ご寄附》

(株)フジカク(大阪府泉南郡熊取町野田)様からいただきました525本の筆記道具をタイ、タムロット地区の貧しい少数民族の子どもたちが学ぶ全寮制の学校(小中高)に寄附させていただきました。代表の女子生徒さんが校長先生の同伴の元ではにかみながら受け取ってくださいました。(株)フジカク様、改めてお礼申し上げます。なお、今年度、この学校内に職業訓練所を建設いたしました。



<筆記用具の寄付の様子>

* 寄附金収入には日本郵政公社の本事業に対する寄附金が含まれています

《ご寄附》

広島佐伯ライオンズクラブ(広島市佐伯区隅の浜)様からいただきました子供用のジャージをタイのメーホンソン県、ラオスのサバナケート県、ベトナムのラムドン省の子どもたちに合計275着を寄附させていただきました。これらの地区の乾期(11月~4月)の夜は日本の夜の気温と同じくらいになることがあります。広島佐伯ライオンズクラブ様には心よりお礼申し上げます。



＜ラオス サバナケート県
サイホンソン村小学校＞



＜タイ メーホンソン県
クンパトゥング村(リス族)＞



＜タイ メーホンソン県タムロット
地区の全寮制学校＞

《 地 区 活 動 》

各地域会員の交流及び地域活動の一環として行われたコンサート及び講演会は、「未来へ架けよう！心の橋」と題して、去る3月5日に本部地区(熊取町)の煉瓦館で行われました。高校生の川崎君(アイユーゴーボランティアメンバー、写真左)による手品をはじめ、タイなどの物品販売や喫茶コーナー、また関西NGO協議会のご協力を得てNGO相談コーナーなど設け、120名の方々にご入場頂きました。素晴らしい演奏をご披露いただきましたワールドウィング(写真右)様は、泉佐野市で発足、各地域での演奏活動及び、国際貢献としてタイやジャマイカなどで音楽を通じて国際交流を図っておられます。ご参加・ご協力いただいた皆様、高校生、大学生のアイユーゴーボランティアや会員の方々に改めて深く感謝いたします。



入場料の収益金(20,250円)は、先のタイの全寮制の学校に寄附させていただきました。

皆様のご寄附、また様々な形でのご協力により、タイ、ラオス、ベトナムの人たちが、特に子どもたちが、一日でも早く自立できる支援体制を整えていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

———＜平成18年度事業計画＞———

最後になりましたが、今年度(平成18年度)の事業計画を紹介させていただきます。

今年度は、タイ、ラオス、ベトナムの3カ国で次のような活動を進めています。

《タイ》

(1) 教育支援プロジェクト

- ①タイ北部の少数民族のための職業訓練所建設
[メーホンソン県パンマパー地区]

(2) 農業地域開発プロジェクト

- ①少数民族の住民参加型農村開発
[メーホンソン県パンムー地区]
- ②開発支援センターへの人材派遣・パイロットファーム建設(ウオーターシステム整備)
[メーホンソン県パンマパー地区]

- ③日本、タイ、ラオス、ベトナムの4ヶ国の専門家参加の第1回共同セミナー開催(農業、福祉、衛生)
[メーホンソン県パンマパー地区]

(3) 保健衛生に関する事前調査

- ①少数民族の貧困と保健衛生に関連する調査。
[メーホンソン県パンマパー地区]

(4) 自主事業(ワークキャンプ)

- ①テーマ(第1回共同セミナー参加、植林、食文化交流お絵描き交流、ホームステイ)
[メーホンソン県パンマパー地区;12月18日~22日]

《ラオス》

(1) 教育支援プロジェクト

- ①小学校教員室建設
[ビエンチャン県]

《ベトナム》

(1) 教育支援プロジェクト

- ①少数民族のための小学校建設とトイレ建設
[ラムドン省ラックドン地区]

(2) 自主事業(ワークキャンプ)

- ①ダラット大学学生と少数民族の自立支援のためのジョイントワークキャンプ
[ラムドン省ラックドン地区:翌年3月24日~28日予定]

《 地 域 だ よ り 》

アイユーゴー会員の方々の地域活動の充実を目指すために、会員方々のお住まいを地区別に分けました。本部との連携の下で、それぞれの地域での活発な活動を目指します。ご協力お願いします。

— 編 集 後 記 —

発行が遅れ、申し訳なく思っています。しかし、現場では着実に理想とする方向に改善されつつあります。時間的余裕が生じてきましたなら、ご一報ください。共に現地に参り、村の人たちとアジアンティストを味わいましょう。アジアの未来を語りながら。今後ともよろしくお願ひいたします。(新田)